



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

大学を離れ2年たち、論文を報告するものであ

文をあまり書かなくなつた。論文を書き続けることは大学教員として評価されるために重要で、よく原稿を家まで持ち帰って夜に仕事をしましたものである。

医学論文には、総説、原著論文、症例報告がある。総説は、あるテーマについて、自分の研究成果も含めて、研究論文を広く紹介し、分かりやすくまとめて解説し、展望するものである。

原著論文とは、研究者が自ら得た研究成果を発表するもので、新規のものでないといけない。症例報告は、珍しい症例や、治療や臨床経過が臨床医の参考になる

の文章や図表を無許可で公開することや別の出版物に使用することはできない。多くの論文には、複数の著者が名前を連ねていて、一般に、筆頭著者は研究を行った者、2番目の著者は指導をした者、3番目以降は何らかの貢献をした者、最後に名前が載っている著者が教室の主任教授である。採択が難しい有名雑誌には、驚くほど多くの共著者が名前を連ねたりする

が、貢献はなくても名前だけ入れてもらっている者がいることもある。これを「gift author ship」(贈り物の共著者)と呼び、不正行為の一つとされる。共著者として名前が載っているだけで、大学は業績とするのだ。論文の多くは英文である。

## 「34」 論文

論文を書くことは嫌いでない。大学院生でも、無名の研究者でも、堂々と研究成果を書いて、査読者に読んでもらい、審査に通れば公表できる。思わぬ反響があることもある。ここには窮屈になってきた大学とは別な自由がある。論文は、本来、不正行為とは無縁の世界である。

「査読」は性善説に基づいて行われるため、この段階で不正を見抜くのは困難な場合がある。一度雑誌に載った論文の著作権は、雑誌の出版社に譲渡されるので、著者といえども論文中